



## 1 2 月の主な行事

1日 : 映画の日、世界エイズデー	10日 : 世界人権デー
3日 : カレンダーの日	22日 : 冬至
7日 : 大雪、神戸港開港記念日	23日 : 天皇誕生日
8日 : 針供養	25日 : クリスマス
9日 : 漱石忌	31日 : 大晦日



## 今月のかわら版 : 1 「 空き巣にご用心! 」



「ちょっとゴミを出しに行くだけ」「うちは盗まれるものなどないから大丈夫」と油断している方は多いのではないのでしょうか。

空き巣は侵入3分、物色5分の計8分で犯行を終わらせて逃走してしまいますし、空き巣の被害額は1万～10万円未満が一番多いようです。

年末は、年間を通して空き巣被害が増加する傾向にあります。空き巣対策には、日ごろから防犯の意識を高く持つことが大事です。

### ◎空き巣被害の傾向

住宅への侵入窃盗は、平成15年まで19万473件（前年比0.6%）と増加していましたが、平成18年は12万23件（前年比-16.0%）と減少してきています。ただ、一日当たりで考えると約329件と未だ多くの住宅が被害に遭っているようです。

### ◎被害が多い一戸建て住宅

侵入窃盗の発生状況は住宅が60.1%を占めており、そのうち一戸建て住宅が38%、共同住宅（3階建以下）が16%、共同住宅（4階建以上）が7%となっています。また、一戸建て住宅の空き巣の侵入手段は、ガラス破りが43%と最も多く、意外にも無締りが42%を占めています。

### ◎空き巣対策として有効なこと

玄関、勝手口は、ワンドア・ツーロックに。  
シリンダー錠はピッキングに強い錠に。  
窓ガラスを防犯ガラスにするか、窓ガラスに防犯フィルムをはる。  
侵入の恐れのある開口部まわりに人感センサー付の照明設備を設ける。

### ◎日ごろから気をつけたいこと

樹木や万年草は見通しを悪くします。裏庭などは定期的に清掃をしたり、庭木の剪定を行うなど敷地内にも気を配っておきましょう。  
長期間留守にするときは、必ずご近所への声かけをしておきましょう。空き巣はうろついているところを近所の人に見られるだけで犯行がやりづらくなります。不審な人には、思い切って声をかけるなど地域の防犯つながりも大事ですね。

空き巣被害にあうと大切な財産がなくなるとともに自分の住居に他人が侵入したという精神的ショックを受けることになります。ちょっとした心の隙に空き巣は侵入します。ドアや窓に対する防犯対策とともに普段からの心掛けが大事ですね。

（参考資料：住宅金融支援機構「すまい・るクラブ通信 第76号」）

## 今月のかわら版 : 2 「 盲導犬のことを知ろう 」



盲導犬は、英語で「Guide Dog」。「盲人を誘導する」という語源があります。盲導犬が組織的に訓練されるようになったのは、第一次世界大戦後のドイツで、戦争による負傷などで目が見えなくなった兵士たちのために盲導犬が育成されました。日本では、1939年（昭和14年）にドイツから4頭の盲導犬が輸入され、その後、1957年（昭和32年）に日本人の手による国産第一号の盲導犬が誕生しました。日本では、現在約1000頭の盲導犬が活躍しています。

### ～盲導犬の誕生から引退まで～

#### ◆誕生◆

健康で盲導犬に向いている性格の繁殖犬から、盲導犬候補の子犬が誕生します。生後2ヶ月位まで母犬のそばで兄弟たちと一緒に暮らします。

#### ◆パピーウォーカーとの生活◆（生後2ヶ月～1歳頃まで）

その後、パピーウォーカーとよばれるボランティアの家庭で約10ヶ月間、家族の一員として、愛情に包まれて育ちます。盲導犬候補の子犬たちはこの時期に人間に対する信頼感を覚えることとなります。

#### ◆訓練センターへ◆（1歳～2歳前後まで）

ソット（座れ）、ダウン（伏せ）、ウェイト（待て）といった基本動作や段差の訓練や障害物をよける訓練などとともに目の不自由な方との共同訓練も行われます。

この間に盲導犬への適性や健康状態などを確認します。

#### ◆卒業～盲導犬生活スタート◆

盲導犬として適していると判断された犬は訓練センターを卒業し、目の不自由な方との新しい生活が始まります。

#### ◆引退◆

10歳を過ぎる頃（人間でいえば60歳くらい）盲導犬を引退し、その後引退犬飼育ボランティアの家でペットとして新しい生活を始めたりすることが多いようです。

#### ～街で盲導犬と出会ったら～

盲導犬は大事な仕事です。集中力を欠くと安全に歩けなくなってしまいます。盲導犬に声をかける、口笛をふく、なでたり、触ったりする、食べ物をあげる、自分のペットと挨拶させようと近づかせたりは絶対にしないでください。ただし、盲導犬使用者の方が困っているときは、積極的に声をかけてあげてください。交差点や横断歩道では犬と歩いている人が、信号機から流れるメロディーなどの音を聴いて判断しています。「赤ですよ」「青になりましたよ」の一声が、大きな安心と安全につながります。道に迷っている様子の時は、自分のひじや肩を軽くつかんでもらって、一緒に歩いてあげてください。「歩きますよ」「止まります」「左に曲がります」などの情報を相手に伝えながら歩きましょう。

盲導犬が活躍するためには、盲導犬のことを理解することが大切です。盲導犬に出会ったら、温かく見守ってあげてください。